13日「今井邦子文学祭」

下諏訪町の関係団体でつくる今井邦子文学祭実行委員会は13日午前10時から、「今井邦子文学祭」を同町湯田町の今井邦子文学館で開く。下諏訪ゆかりのアララギ派歌人・今井邦子（1890～1948年）の業績を知ってもらおうと、邦子の命日（7月15日）に合わせて開催する。今回のテーマは「今井邦子と西餅屋」。邦子の育ての親である父方の祖母よねの実家があった和田峠の西餅屋と、邦子の関係を関連する作品を通して掘り下げる。参加無料。（樋口美世子）

今井邦子文学祭への来場を呼び掛ける同実行委員や講演者の皆さん

「西餅屋」との関係掘り下げ

下諏訪 和田嶺合戦160周年で注目

西餅屋は、中山道の難所「和田峠」（小県郡長和町・下諏訪町境）の下諏訪側にあった茶屋で4軒あった。和田峠では1864年10月、京へ上ろうとする尊王攘夷派の水戸浪士が結成した「天狗党」と、これを阻止する幕府側の高島・松本両藩が樋橋（下諏訪町）で戦った「和田嶺合戦」があった。この際、天狗党のたまり場になることを恐れた高島・松本両藩は西餅屋4軒を焼き払った。その後、西餅屋の茶屋は復元され、1924（大正13）年まであった最後の1軒「竹屋」が邦子の祖母よねの実家だった。

今年は和田嶺合戦から160周年に当たり、文学祭では和田峠や西餅屋に注目した。秋には町が講演会や企画展など160周年記念事業を計画している。

文学祭は2部制で、第1部では「語りと朗読の会」会員が邦子の童話集から「白露物語」を朗読する。第2部は文学講座とし、町博物館協議委員の小松直人さんが「和田峠の今昔」と題し、和田峠の歴史を紹介。続いて、語りと朗読の会の宮坂久さんが邦子の随筆「和田峠の道」を朗読する。最後に、あさかげ短歌会下諏訪支社の髙木萬知江さんが邦子が詠んだ西餅屋や和田峠の短歌10首を取り上げる。髙木さんによると、邦子は3歳から18歳まで下諏訪の祖母よねに預けられ、多くの影響を受けたという。

文学祭後には同文学館2階の展示解説もある。

今井邦子文学館へは、四ツ角駐車場の利用を呼び掛けている。問い合わせは同博物館（電話0266・27・1627）へ。